

令和6年度
(2024年度)

〔令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで〕

事業報告書
(大阪薫英女学院高等学校・中学校関係抜粋)



学校法人 薫英学園

事業報告書

令和6年度(2024年度)事業報告
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I 法人の概要

(1) 基本情報

- ① 法人の名称 学校法人 薫英学園
- ② 主たる事務所
- 住 所 〒566-8501 大阪府摂津市正雀1-4-1
- 電話番号 06-6381-6548
- FAX 06-6319-1505
- ホームページアドレス <https://www.kun-ei.ac.jp/>

(2) 建学の精神

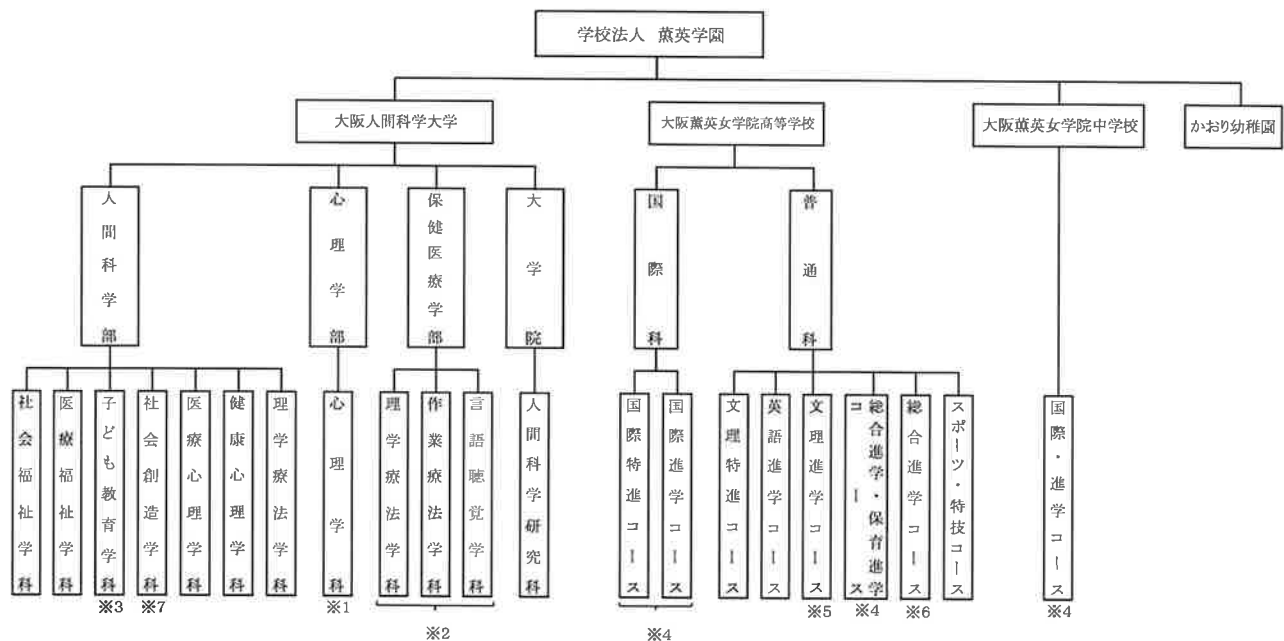
本学園は、昭和6年(1931年)に創設された教育機関であり、令和6年6月に創立93周年を迎えました。この間、一貫して堅持してきた建学の精神は「敬・信・愛」です。

すなわち「人生は、衣・食・住が充たされただけでは幸福ではない。他より尊敬され、信頼され、愛されることが真の幸福である。互いに相敬し、相信じ、相愛し、明るき人生観に生きなければならない。」という建学の精神によって築かれる人間関係は、思想・信条や価値観の異なる人間との共生、環境との共生という、まさに21世紀に求められているテーマである「共生」を追求する根幹をなすものと考えています。

(3) 学校法人の沿革

昭和6(1931)年6月	私塾薫英女子学院創設(大阪市東淀川区木川)
昭和8(1933)年7月	各種学校令による私立薫英女子学院設立認可
昭和13(1938)年7月	薫英女学校(修業年限4年)に名称変更
昭和16(1941)年3月	財団法人 薫英学園設立並びに薫英高等女学校(修業年限5年)設置認可
昭和18(1943)年4月	全校生徒正雀学舎に移転完了(大阪府摂津市正雀)
昭和22(1947)年3月	薫英中学校設置認可
昭和23(1948)年3月	学制改革による薫英高等学校設置認可
昭和26(1951)年3月	財団法人薫英学園を学校法人に組織変更認可
昭和40(1965)年9月	薫英中学校廃止認可
平成2(1990)年4月	薫英高等学校普通科に国際コースを設置
平成8(1996)年4月	薫英高等学校に国際科開設
平成9(1997)年3月	大阪薫英女学院中学校設置認可
平成9(1997)年4月	大阪薫英女学院中学校開設
	薫英高等学校を大阪薫英女学院高等学校に名称変更認可
	大阪薫英女学院高等学校普通科に文理コース・総合コースを設置

(4) 設置する学校・学部・学科等【学園組織】(令和6年5月1日現在)



- ※1 令和2年度から 大学に 心理学部 心理学科 を新設
 ※2 令和2年度から 大学に 保健医療学部 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科 を新設
 ※3 令和3年度から 大学の 子ども保育学科 を 子ども教育学科 に名称変更
 ※4 令和3年度から 高等学校に 国際特進、国際進学、総合進学・保育進学 中学校に 国際・進学の各コース を新設
 ※5 令和4年度から 高等学校に 文理進学コース を新設
 ※6 令和6年度から 高等学校に 総合進学コース を新設
 ※7 令和6年度から 大学に 人間科学部 社会創造学科 を新設

所在地

大阪薫英女学院高等学校(昭和16年4月開設)

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

大阪薫英女学院中学校(平成9年4月開設)

〒566-8501 摂津市正雀1-4-1 TEL06-6381-5381

(5) 学生数の状況 (令和6年5月1日現在)

設置校	入学定員	入学者数	収容定員	現員
大阪薫英女学院高等学校	440	187	1,320	532
大阪薫英女学院中学校	120	40	360	108

(6) 収容定員充足率 (毎年度5月1日現在)

設置校	令和4年度	令和5年度	令和6年度
大阪薫英女学院高等学校	0.42	0.39	0.40
大阪薫英女学院中学校	0.28	0.24	0.30

(7) 役員・評議員の概要

(令和6年5月1日現在)

形 態	定員	常勤	非常勤
理 事	9	5	4
評 議 員	19	8	10
監 事	2	0	2

(8) 教職員の概要

(令和6年5月1日現在)

設 置 校	教員数		職員数		計
	専任	非常勤	専任	パート タイマー	
大阪薫英女学院高等学校	46	16	12	10	84
大阪薫英女学院中学校	11	4	3	1	19

Ⅱ 中期的な計画及び事業計画の達成状況

〔高等学校・中学校関係〕

1 教育活動の充実

(1) 学科、コース

【高等学校】

学 科	コ ー ス
普 通 科	文理特進、英語進学、文理進学、総合進学・保育進学、 総合進学、スポーツ・特技
国 際 科	国際特進、国際進学

【中学校】

学 科	コ ー ス
—	国際・進学

2 海外体験（長期留学・短期留学・短期研修・修学旅行）

中学生は留学する全員がニュージーランドで、国際科の高校生は希望によりニュージーランドもしくはカナダでの1年間留学を修了することができました。

また、普通科英語進学コースの短期留学、中学生の短期留学についてもニュージーランドで実施しました。短期研修は8月上旬から2週間イギリスにおいて実施し、高校生の希望者が参加しました。

高校の海外修学旅行に関しては、7月実施の普通科の各コースはニュージーランド、国際科の中高一貫生はシンガポール、マレーシアで実施できました。3月に実施したスポーツ・特技コースに関しても昨年に続きシンガポールで実施しました。

世界情勢の不安定化や急激な円安がマイナス要因となる中でも工夫しながら安心安全な海外体験をめざしました。

(1) 長期留学

海外長期留学は、ニュージーランドとカナダにおいて高校生及び中学生が1年間留学し、英語力の習得はもとより、国際感覚の醸成や国際理解を深め、人間形成に努めました。1988年にカナダ留学から始まった海外長期留学は、今回で37回目、これまで約4,700名近くの生徒が留学に参加しています。

(2) 短期留学

普通科英語進学コースの短期留学(約5週間)もニュージーランドで再開することができ、7月22日(月)～8月28日(水)に実施しました。

また、中学生の短期留学(約3か月)では、長期留學生徒とともに1月にニュージーランドに出発し、高校入学式直前に帰国しました。

3 生徒募集

少子化が進み、共学志向が強まる中で、喫緊の課題である生徒確保に向け、保護者・生徒(児童)対象の進学説明会や個別相談会、校内オープンキャンパスなどの開催に加え、学校・塾への訪問を積極的に行うなどの取組みを行いました。

中学校では、これまでに引き続き、中高一貫教育とオリジナルの英語教育、海外体験をアピールしました。また、大手進学塾との連携も進めました。高等学校については、留学制度を中心とする国際的視野の涵養や英語教育及び有名大学への豊富な進学実績という、本校の特色をアピールして定員確保に努めました。

これらの募集活動の結果、高等学校、中学校募集とも、受験者数、入学者数の増加という一定の成果がありましたが、当初目標には届きませんでした。

(1) 生徒・保護者対象進学説明会(オープンキャンパス・入試説明会・留学フェアなど)

高等学校：実施回数	10回	参加件数	970件
中学校：実施回数	8回	参加件数	257件

(2) プレテスト

中学校受験希望者を対象に2回実施し、延べ100名が受験しました。

(3) 塾対象学校(入試)説明会

9月に実施し、104塾113名の先生方に参加いただきました。

4 「英検」(実用英語技能検定)の実績

令和6年度、本校に在籍する生徒の中で「英検」各級取得者数は、1級4名、準1級36名、2級225名、準2級362名と大きな成果を収めています。特に、1年間留学体験をした国際科の生徒3人に1人が準1級以上合格となりました。なお、高校生が取得できる割合が1%といわれる超難関の1級合格は23年連続を更新しています。

5 進学実績

進学実績は、中高一貫教育の強みを活かしながら、国公立大学や早慶上智・関関同立などの難関私立大学へ多数の合格者を出しています。令和4年度からは、参加することで生徒が自ら学ぶ力を高め、学習習慣の定着を支援する「薫英放課後学習支援システム(KAS)」を導入するなど学力向上への取組みを一層進めています。

令和6年度の合格実績は延べ299名となり、国公立大学、首都圏難関私立大学、関関同立、産近甲龍をはじめ、外国語系大学等に多数の合格者を出しています。

6 Kun-ei Kids の実施

Kun-ei Kidsとして、小学校5・6年生を対象に5月から11月にかけて6回にわたり英会話講座を開講し、47名の参加者がありました。参加者は、本校の様子を身近に知ることができるなど、本校受験への大きなきっかけとなっており、募集対策の一環ともなることから引き続き内容の充実に努めました。

また、大阪人間科学大学人間科学部子ども教育学科の学生が、講座の開始時や合間にアクティビティを担当し、学生にとっても良い実習の機会ともなりました。

7 薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストの実施

ニュージーランド、カナダの両大使館、大阪府教育委員会などの後援を得て、文化の日に実施しました。当日は、定型暗誦のスタンダードの部と自由暗誦のアドバンスドの部の2部門に分かれて、言葉と身体表現をリンクさせて聞いている人の心に残る発表がありました。併せて、高円宮杯スピーチコンテストに大阪府代表として参加した中学生が歓迎のスピーチを行い、本校で培った英語力を披露しました。司会は、中学校で長期留学を経験した高校2年生が担当しました。

8 その他(クラブ活動実績)

(1) 陸上競技部

ア. 陸上競技部は、大阪高等学校駅伝競走大会において優勝し、大阪府の代表として全国高等学校駅伝競走大会に19年連続19回目の出場を果たしました。本大会は第3位となり、5年連続11回目の入賞を果たしました。

イ. 皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝競走大会に、高校生3名と卒業生3名が選手として出場し、第2位となりました。

- ウ. 秩父宮賜杯全国高等学校陸上競技選手権大会（全国インターハイ）の 800m に村井和果（1 年）、1500m に塚本夕藍（3 年）、3000m に塚本夕藍（3 年）と黒葛原唯夏（2 年）が出場しました。3 年連続出場の塚本夕藍は 2 種目とも決勝に進出しました。全国インターハイは 38 大会連続の出場となりました。
- エ. 近畿高等学校駅伝競走大会において、7 年ぶり 4 回目の優勝を達成しました。

（2）バスケットボール部

- ア. 高等学校バスケットボール部は、6 月の大阪高等学校総合体育大会バスケットボール大会において優勝、近畿高等学校バスケットボール選手権大会ではベスト 4、8 月の全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会（北部九州インターハイ）は 2 回戦で敗退となりました。
- イ. 10 月の国民スポーツ大会の少年の部において、本校生の 8 名が大阪府代表として出場し、ベスト 4 となりました。
- ウ. 大阪高等学校バスケットボール選手権大会（ウィンターカップ予選）に優勝し、12 月の全国高等学校バスケットボール選手権大会（ウインターカップ）では、慶誠高に惜敗し、第 3 位となりました。
- エ. 9 月から 11 月まで長期に渡って行われる U18 日清トップリーグでは 8 チーム中の 7 位となりました。トップリーグとは、令和 4 年度に新設された、U18 世代最高峰のリーグ戦で、選出基準を満たした U18 世代のトップチーム（男女各 8 チーム）がリーグ戦日本一という U18 世代の新たなタイトルをかけて、数ヶ月にわたるリーグ戦を戦うものです。

（3）ソフトテニス部

- ア. 高等学校ソフトテニス部では、6 月に大阪高校ソフトテニス春季大会の団体戦に出場し、2 回戦で敗退となりました。10 月の大阪高等学校新人ソフトテニス大会の団体戦で決勝リーグに進出し、第 4 位となりました。次年度の大会でシード権を得ました。

（4）囲碁部

- ア. 高等学校囲碁部では、8 月に行われた全国高等学校総合文化祭（清流の国 ぎふ総文）に昇葉菜が大阪府代表として出場しました。

（5）中学バスケットボール部

- ア. 1 月に大阪総合中学校体育大会に出場し、決勝リーグに進出しました。この結果、準優勝となり、春の中学総体はシード権を得ました。

（6）個人の活躍

- ア. 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会大阪府大会に舟田唯が出場し、上位に入賞し、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場しました。

イ. 全国U18 女子セブンスラグビーフットボール大会近畿予選に大阪府にあるクラブチームに所属する大谷心和が選手として出場しました。